

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成27年11月12日

【四半期会計期間】 第86期第2四半期(自平成27年7月1日至平成27年9月30日)

【会社名】 荒川化学工業株式会社

【英訳名】 ARAKAWA CHEMICAL INDUSTRIES, LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 谷奥 勝三

【本店の所在の場所】 大阪市中央区平野町1丁目3番7号

【電話番号】 06(6209)8500(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役業務統轄部長 宮下 泰知

【最寄りの連絡場所】 大阪市中央区平野町1丁目3番7号

【電話番号】 06(6209)8500(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役業務統轄部長 宮下 泰知

【縦覧に供する場所】 荒川化学工業株式会社東京支店
(東京都中央区日本橋本町3丁目7番2号)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第85期 第2四半期 連結累計期間	第86期 第2四半期 連結累計期間	第85期
会計期間	自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日	自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日	自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日
売上高 (百万円)	39,593	39,182	81,742
経常利益 (百万円)	1,649	1,714	3,431
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	1,195	1,114	2,224
四半期包括利益又は 包括利益 (百万円)	1,150	431	4,747
純資産額 (百万円)	44,630	48,159	47,845
総資産額 (百万円)	81,037	85,128	85,245
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	59.23	54.73	109.94
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	59.18	54.58	109.39
自己資本比率 (%)	53.3	54.5	54.3
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	2,859	3,193	5,094
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	861	2,481	1,810
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	870	1,598	2,017
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	7,578	10,516	8,136

回次	第85期 第2四半期 連結会計期間	第86期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日	自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日
1株当たり四半期 純利益金額 (円)	16.73	30.25

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を、第86期第1四半期連結累計期間から適用し、「四半期(当期)純利益」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」としております。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

主要な関係会社の異動については、第1四半期連結会計期間より、株式を取得した山口精研工業株式会社を連結の範囲に含めております。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動または、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の概況

当第2四半期連結累計期間の世界経済は、米国景気が拡大基調を維持し、欧州景気が回復基調にあるなか、中国やASEAN地域の経済が減速し、全体としては緩やかな成長に留まりました。国内経済は、個人消費が横ばいとなり、回復の動きに停滞が見られました。

このような環境のもと、当社グループにおきましては、第3次中期経営計画の方針に沿った重点施策を進め、中国などのアジア地域ならびに欧州における事業拡大や事業開発の促進に注力してまいりました。

その結果、中国経済の減速などによる需要低迷により、売上高は伸び悩みましたが、採算性の改善に努め、当第2四半期連結累計期間の売上高は391億82百万円（前年同期比1.0%減）、営業利益は15億38百万円（同0.3%減）、経常利益は17億14百万円（同4.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は11億14百万円（同6.8%減）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。なお、セグメント区分の売上高はセグメント間の内部売上高を含んでおりません。

製紙薬品事業

国内製紙業界は、段ボール原紙など板紙の生産が堅調に推移しました。一方、印刷・情報用紙は、需要が低迷しました。このような環境のもと、当事業におきましては、国内販売は前年を下回りましたが、アジア地域における拡販が寄与し、海外においては増収増益となりました。

その結果、売上高は100億47百万円（前年同期比0.5%減）、セグメント利益は5億97百万円（同6.6%増）となりました。

化成品事業

粘着・接着剤業界は、世界的に紙おむつ向け接着剤の需要が増加しております。一方、印刷インキ業界は出版・広告分野では低迷が続いております。このような環境のもと、当事業におきましては、粘着・接着剤用樹脂については欧州における需要は旺盛なものの、中国での需要低迷もあり、売上高は225億26百万円（前年同期比4.1%減）、セグメント利益は9億10百万円（同11.3%増）となりました。

電子材料事業

電子工業業界は、スマートフォンが需要を牽引しました。このような環境のもと、当事業におきましては、光硬化型樹脂等が回復傾向にあることに加え、新たに子会社化した山口精研工業株式会社の精密研磨剤が寄与し、売上高は64億50百万円（前年同期比10.3%増）、セグメント利益は前年度の損失から黒字転換し、15百万円（前年同期はセグメント損失79百万円）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、受取手形及び売掛金が18億92百万円、たな卸資産が6億57百万円減少した一方、現金及び預金が22億98百万円、有形固定資産が4億58百万円、無形固定資産が5億51百万円増加し、前連結会計年度末並みの851億28百万円となりました。

負債は、短期借入金が9億61百万円、長期借入金が8億21百万円増加したものの、支払手形及び買掛金が11億9百万円減少したことなどにより、前連結会計年度末に比べ4億30百万円減少し、369億69百万円となりました。

純資産は、その他有価証券評価差額金が減少したものの、利益剰余金が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ3億13百万円増加し、481億59百万円となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ23億79百万円増加し、105億16百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、31億93百万円の増加となりました。これは、税金等調整前四半期純利益(18億29百万円)、減価償却費(12億88百万円)および売上債権の減少(21億75百万円)などにより資金が増加した一方、仕入債務の減少(14億2百万円)などにより資金が減少した結果であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、24億81百万円の減少となりました。これは、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出(14億98百万円)や固定資産の取得による支出(11億91百万円)が主なものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、15億98百万円の増加となりました。これは、借入金の純増加(17億30百万円)が主なものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた問題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は14億6百万円であります。

(6) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

経営成績に重要な影響を与えると推測される要因は、事業等のリスクに記載したとおりであります。各リスクに対しては、影響を最小限に抑えられるように、発生の可能性や結果の重大性に応じた対策を講じてまいります。

平成25年4月にスタートしました第3次中期経営計画では、創業140周年(平成28年)に向け、グループ経営理念を共有した社員が躍動するアジア企業を目指します。さらに、2020年(平成32年)には、アジアから真のグローバル企業へと、グローバルで戦える企業集団となることを目指します。

なお、第3次中計においては、平成27年度の連結売上高800億円、連結営業利益40億円、連結経常利益40億円、親会社株主に帰属する当期純利益24億円を目標としております。

(7) 経営者の問題認識と今後の方針について

当社は、グローバルに事業展開を推進する荒川化学グループ全体で、共有すべきグループ経営理念として「個性を伸ばし 技術とサービスで みんなの夢を実現する」を掲げております。また、第3次中期経営計画のスタートにあたり、新たなビジョンとして「つなぐを化学する SPECIALITY CHEMICAL PARTNER」を掲げました。「つなぐを化学する」とは、当社の事業領域を表しており、当社の製品は材料の表面や隙間に存在し、機能を付与しています。私たちは、このような製品を通して、取引先はもとより、グループ社員、社会とのつながりを大切にする「SPECIALITY CHEMICAL PARTNER」を目指すことを基本方針としております。

この基本方針を具体的に実現するため、国内外の生産・販売拠点及び関係会社の整備と拡充をはかり、全社をあげて経営基盤の充実と企業体質の強化に取り組み、同時に法令遵守、環境保護、社会貢献などの社会的責任を果すことに努め、事業の発展を目指しております。

財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析に関する課題は、当社グループが永続的に付加価値を生み出し、安定的かつ健全な成長を遂げていくことであると認識しております。そのための当面の目標は、第3次中計に掲げた施策を実行することにあります。

第3次中計の基本方針として、「グローバルで通用する経営基盤を構築する」ことを目指し、「グローバル化の加速」、「日本事業の再構築」、「グローバルガバナンス体制の強化」、「事業開発の促進」の4項目を掲げ、重点的に取り組んでおります。

なお、当社は、グループ経営理念とビジョンの実現に向け、新たに、当社が大切にしている価値観・行動指針を明確化し、「**ARAKAWA WAY 5つのKIZUNA**」を策定しております。これを荒川化学グループ全社員で共有し、根幹の部分は変わることはない経営を貫き、適切な判断と迅速な行動を積み重ねてまいります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	52,800,000
計	52,800,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成27年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年11月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	20,515,200	20,515,700	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株であります。
計	20,515,200	20,515,700		

(注) 提出日現在発行数には、平成27年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成27年7月1日～ 平成27年9月30日	193,900	20,515,200	82	3,284	82	3,505

(注) 1 新株予約権の行使による増加であります。

2 平成27年10月1日から平成27年10月31日までの間に、新株予約権の行使により、発行済株式総数が500株、資本金及び資本準備金がそれぞれ0百万円増加しております。

(6) 【大株主の状況】

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	平成27年9月30日現在
			発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	1,553	7.57
荒川化学従業員持株会	大阪市中央区平野町1丁目3-7	1,163	5.67
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7-1	940	4.59
荒川 壽正	兵庫県西宮市	584	2.85
三菱化学株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目1-1	406	1.98
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO(常任代理人 シティバンク銀行株式会社)	388 GREENWICH STREET, NY, NY 10013, USA(東京都新宿区新宿6丁目27-30)	400	1.95
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1丁目5-5	397	1.94
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1-2	396	1.93
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11-3	391	1.91
荒川 彦二	大阪府豊中市	380	1.85
計		6,614	32.24

(注) 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社と日本マスタートラスト信託銀行株式会社が所有する株式は、信託業務に係るものであります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	平成27年9月30日現在
			内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 12,500		
完全議決権株式(その他)	普通株式 20,463,800	204,638	
単元未満株式	普通株式 38,900		
発行済株式総数	20,515,200		
総株主の議決権		204,638	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が400株(議決権4個)含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式21株が含まれております。

【自己株式等】

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	平成27年9月30日現在	
				所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 荒川化学工業(株)	大阪市中央区平野町1丁目 3番7号	12,500		12,500	0.06
計		12,500		12,500	0.06

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成27年7月1日から平成27年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成27年4月1日から平成27年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,228	10,526
受取手形及び売掛金	29,649	27,757
有価証券	-	232
商品及び製品	8,440	7,968
仕掛品	1,070	1,319
原材料及び貯蔵品	7,476	7,041
繰延税金資産	549	510
その他	745	881
貸倒引当金	142	146
流動資産合計	56,018	56,092
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	7,793	7,948
機械装置及び運搬具（純額）	7,352	6,918
土地	4,797	5,219
建設仮勘定	553	789
その他（純額）	331	409
有形固定資産合計	20,827	21,285
無形固定資産		
のれん	71	645
その他	500	477
無形固定資産合計	571	1,122
投資その他の資産		
投資有価証券	7,125	5,877
繰延税金資産	187	194
その他	530	570
貸倒引当金	14	15
投資その他の資産合計	7,828	6,627
固定資産合計	29,227	29,036
資産合計	85,245	85,128

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	11,807	10,698
短期借入金	9,592	10,554
未払法人税等	451	497
未払消費税等	243	126
繰延税金負債	70	72
賞与引当金	1,035	1,026
役員賞与引当金	46	22
修繕引当金	94	13
設備関係支払手形	134	73
その他	3,451	3,112
流動負債合計	26,926	26,195
固定負債		
社債	5,000	5,000
長期借入金	2,683	3,504
繰延税金負債	1,393	1,091
修繕引当金	-	12
退職給付に係る負債	813	639
資産除去債務	90	91
その他	493	435
固定負債合計	10,474	10,774
負債合計	37,400	36,969
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,192	3,284
資本剰余金	3,414	3,505
利益剰余金	34,298	35,133
自己株式	11	12
株主資本合計	40,893	41,911
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,572	1,814
為替換算調整勘定	2,620	2,536
退職給付に係る調整累計額	165	157
その他の包括利益累計額合計	5,358	4,508
新株予約権	23	17
非支配株主持分	1,570	1,722
純資産合計	47,845	48,159
負債純資産合計	85,245	85,128

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	39,593	39,182
売上原価	32,238	31,415
売上総利益	7,355	7,767
販売費及び一般管理費	1 5,812	1 6,228
営業利益	1,543	1,538
営業外収益		
受取利息	11	17
受取配当金	64	85
不動産賃貸料	60	61
為替差益	6	76
その他	130	227
営業外収益合計	273	468
営業外費用		
支払利息	129	122
持分法による投資損失	17	27
支払手数料	-	89
その他	20	53
営業外費用合計	167	292
経常利益	1,649	1,714
特別利益		
固定資産売却益	20	0
投資有価証券売却益	-	127
受取補償金	2 440	-
特別利益合計	461	127
特別損失		
固定資産除売却損	11	12
特別損失合計	11	12
税金等調整前四半期純利益	2,099	1,829
法人税、住民税及び事業税	535	492
法人税等調整額	132	117
法人税等合計	667	610
四半期純利益	1,432	1,219
非支配株主に帰属する四半期純利益	236	104
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,195	1,114

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
四半期純利益	1,432	1,219
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	350	758
為替換算調整勘定	612	0
退職給付に係る調整額	12	7
持分法適用会社に対する持分相当額	7	22
その他の包括利益合計	281	788
四半期包括利益	1,150	431
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	967	274
非支配株主に係る四半期包括利益	183	156

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,099	1,829
減価償却費	1,280	1,288
のれん償却額	30	61
貸倒引当金の増減額(は減少)	5	0
賞与引当金の増減額(は減少)	43	15
役員賞与引当金の増減額(は減少)	19	24
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	155	182
投資有価証券売却損益(は益)	-	127
固定資産除売却損益(は益)	9	12
受取利息及び受取配当金	75	103
支払利息	129	122
持分法による投資損益(は益)	17	27
売上債権の増減額(は増加)	240	2,175
たな卸資産の増減額(は増加)	703	747
仕入債務の増減額(は減少)	855	1,402
未払消費税等の増減額(は減少)	88	116
その他	408	585
小計	3,363	3,709
利息及び配当金の受取額	72	103
利息の支払額	149	113
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	427	505
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,859	3,193
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の純増減額(は増加)	-	6
有形固定資産の取得による支出	873	1,162
有形固定資産の売却による収入	42	5
投資有価証券の取得による支出	12	13
投資有価証券の売却による収入	-	244
無形固定資産の取得による支出	19	28
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	1,498
投資その他の資産の増減額(は増加)	0	11
その他	-	9
投資活動によるキャッシュ・フロー	861	2,481
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	477	230
長期借入れによる収入	494	2,200
長期借入金の返済による支出	734	700
新株予約権の行使による株式の発行による収入	107	177
自己株式の取得による支出	0	0
配当金の支払額	261	304
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	-	4
財務活動によるキャッシュ・フロー	870	1,598
現金及び現金同等物に係る換算差額	124	69
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,002	2,379
現金及び現金同等物の期首残高	6,576	8,136
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,578	10,516

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
連結の範囲の重要な変更 第1四半期連結会計期間より、株式を取得した山口精研工業株式会社を連結の範囲に含めております。なお、みなし取得日を平成27年6月30日としているため、当第2四半期連結会計期間より四半期損益計算書、四半期包括利益計算書及び四半期キャッシュ・フロー計算書を連結しております。

(会計方針の変更等)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
(会計方針の変更) 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を、第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更いたしました。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更いたします。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。 当第2四半期連結累計期間の四半期連結キャッシュ・フロー計算書においては、連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得又は売却に係るキャッシュ・フローについては、「財務活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載し、連結範囲の変動を伴う子会社株式の取得関連費用もしくは連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得又は売却に関連して生じた費用に係るキャッシュ・フローは、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載しております。 企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58 - 2項(4)、連結会計基準第44 - 5項(4)及び事業分離等会計基準第57 - 4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。 この結果、当第2四半期連結累計期間の経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ89百万円減少しております。また、当第2四半期連結会計期間末の資本剰余金に与える影響は軽微であります。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
原価差異の繰延処理 定期的な修繕が特定の四半期におこなわれるために発生する原価差異は、予定原価が年間を基礎に設定されており、原価計算期間末までに解消が見込まれるため、当該原価差異を流動資産(その他)として繰り延べております。

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
運送費	1,223百万円	1,249百万円
貸倒引当金繰入額	0百万円	0百万円
給与	1,131百万円	1,231百万円
賞与引当金繰入額	348百万円	395百万円
役員賞与引当金繰入額	21百万円	24百万円
退職給付費用	62百万円	72百万円
減価償却費	91百万円	105百万円
研究開発費	1,316百万円	1,406百万円
のれん償却額	30百万円	61百万円

2 受取補償金の内容

(前第2四半期連結累計期間)

連結子会社である廈門荒川化学工業有限公司において、都市計画の変更にもなう事業拠点の移転要請により、補償金を受領しております。受領金額より移管費用や固定資産除却損等を控除した金額を特別利益として計上しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
現金及び預金勘定	7,670百万円	10,526百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	92百万円	243百万円
有価証券(MMF等)		232百万円
現金及び現金同等物	7,578百万円	10,516百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月19日 定時株主総会	普通株式	261百万円	13円00銭	平成26年3月31日	平成26年6月20日	利益剰余金

2 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年11月4日 取締役会	普通株式	263百万円	13円00銭	平成26年9月30日	平成26年12月1日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月18日 定時株主総会	普通株式	304百万円	15円00銭	平成27年3月31日	平成27年6月19日	利益剰余金

2 基準日が当連結会計年度の開始の日から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年11月4日 取締役会	普通株式	307百万円	15円00銭	平成27年9月30日	平成27年12月1日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	製紙薬品	化成品	電子材料	計		
売上高						
外部顧客への売上高	10,097	23,495	5,850	39,443	150	39,593
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	55	-	55	12	68
計	10,097	23,550	5,850	39,498	162	39,661
セグメント利益又は損失()	560	818	79	1,299	9	1,309

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険、不動産仲介等を含んでおります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,299
「その他」の区分の利益	9
全社費用の配賦差額(注) 1	362
営業外損益(注) 2	128
四半期連結損益計算書の営業利益	1,543

(注) 1 全社費用の配賦差額は、主に報告セグメントに予定配賦した一般管理費の差額であります。

2 営業外損益は、主に報告セグメントに計上されている営業外損益項目であります。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	製紙薬品	化成品	電子材料	計		
売上高						
外部顧客への売上高	10,047	22,526	6,450	39,024	157	39,182
セグメント間の内部売上高 又は振替高		44		44	14	58
計	10,047	22,570	6,450	39,069	171	39,240
セグメント利益	597	910	15	1,523	10	1,533

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、損害保険、不動産仲介等を含んでおります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,523
「その他」の区分の利益	10
全社費用の配賦差額(注)1	92
営業外損益(注)2	87
四半期連結損益計算書の営業利益	1,538

(注) 1 全社費用の配賦差額は、主に報告セグメントに予定配賦した一般管理費の差額であります。

2 営業外損益は、主に報告セグメントに計上されている営業外損益項目であります。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「電子材料」セグメントにおいて、第1四半期連結会計期間に、山口精研工業株式会社の全ての株式を取得し、連結子会社としております。当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間において607百万円であります。

(企業結合等関係)

取得による企業結合

(企業結合に係る暫定的な処理の確定)

平成27年6月30日に行われた山口精研工業株式会社との企業結合において、第1四半期連結会計期間では暫定的な会計処理を行っていましたが、当第2四半期連結会計期間において確定しております。なお、のれんの金額に修正は生じておりません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額(円)	59.23	54.73
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	1,195	1,114
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	1,195	1,114
普通株式の期中平均株式数(株)	20,186,873	20,371,401
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額(円)	59.18	54.58
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(百万円)		
普通株式増加数(株)	18,022	54,327
(うち新株予約権(株))	(18,022)	(54,327)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前 連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

第86期(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)中間配当については、平成27年11月4日開催の取締役会において、平成27年9月30日の最終の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	307百万円
1株当たり配当金	15円00銭
支払い請求権の効力発生日及び支払開始日	平成27年12月1日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年11月12日

荒川化学工業株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 西原 健二 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 井上 正彦 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている荒川化学工業株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成27年7月1日から平成27年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成27年4月1日から平成27年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、荒川化学工業株式会社及び連結子会社の平成27年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。